２０２４年5月２９日・３０日

～能登半島地震（志賀町、輪島市）視察・調査報告～

政治の責任で希望をもって暮らせる能登、島根へ

日本共産党島根県委員会視察団
県議会議員　尾村　利成
県副委員長　村穂江利子
衆院島根２区予定候補　亀谷　優子
県議団事務局長　遠藤　秀和

■はじめに

視察団は５月１３日～１５日（３日間）、志賀町役場、志賀原発、志賀町立富来病院、特養ホーム、避難所（給水所）・仮設住宅などを訪問・調査。輪島市では土砂崩れで孤立した集落や地震で最大４メートル隆起した海岸・漁港などを調査。

被災地・被災者の実態と復旧・復興に向けた課題、地震・津波などの自然災害と原発事故が同時に起きる「複合災害」時の避難は困難であり、「原発ゼロ」こそ命を守る保障であることを確認しました。

（円は原発からの距離）

（1）石川県の被害の現状

能登半島地震では、震度７を志賀町、輪島市で、七尾市、珠洲市、穴水町、能登町では震度６強を観測。５月２１日現在、死者２４５人（うち災害関連死１５人）、住家被害は８万１２４２棟に上っています。

５月２１日時点で各市町に開設された１次避難所やホテル・旅館の２次避難所などに身を寄せる避難者は３４０９人。地震発生から５カ月が経過した今も、多くの住民が避難生活を余儀なくされています。

（2）能登半島のほぼ中央西側に位置する志賀（しか）町の状況

志賀町は旧志賀町と旧富来（とぎ）町から構成され、人口は１万８６００人（約７９００世帯）、高齢化率（６５歳以上人口）は４４.８％で農林漁業が基幹産業。

５月８日現在、人的被害は死者２人、重傷者７人、軽症者９７人の計１０６人、住家被害は６３８７棟（全壊５１８棟、半壊２１９１棟、一部破損３６６７棟など）。３月２日にすべての上水道区で通水が完了。５月７日現在の避難状況は、指定避難所５箇所で避難者は１４８人。原発事故が起きれば、半島北東部の能登町と金沢市の南西部に位置する白山市に避難。

＜原発再稼働を主張し、当選した志賀町の稲岡町長からも安全性見直し求める声＞

志賀町の稲岡健太郎町長は昨年１２月末の町長選で、「電気代も高騰している現状では、すぐにでも原発を再稼働すべきだ」と主張して初当選。その一週間後の能登半島地震を受け、「改めて地震列島の中の原子力だと分かった」「北陸電力は再稼働をめざすとのことだが、以前のように安全性をアピールすることは難しい」「避難計画を抜本的に見直す必要がある」と再稼働への慎重姿勢に態度を転換しました。

（3）輪島市の被害状況

輪島市は人口２万１９００人（世帯数１万７８０世帯）、高齢化率は４６.３％で、世界農業遺産「能登の里山里海」が広がる豊かな自然環境、歴史や伝統文化など数多くの地域資源をいかした観光業や漆器産業、農林水産業が基幹産業。５月８日現在、死者１０６人（うち災害関連死３人）、住家被害は１万４８１６棟（全壊３９８９棟、半壊４５５７棟、一部破損６２７０棟）にも及んでいます。

■２６年前の被害想定は見直されず、実際の被害と想定に大きな乖離

（1）石川県　地震被害想定を２０２４年度中に見直し、防災計画に反映へ

１９９８年に石川県が策定した能登半島沖の断層による地震被害想定は、マグニチュード７．０の地震発生でごく局所的な災害で、「災害度は低い」とされていました。具体的な被害は、県内全体で死者７人、負傷者２１１人、建物全壊１２０棟、半壊１６８９棟、避難者２７８１人など、今回の被害を大幅に下回る想定となっていました。２６年前の地震被害想定は見直されることなく、食料などの備蓄はすぐに底をつくこととなりました。

石川県は４月１９日、地震の被害想定の見直しに向けた議論を開始。現行の被害想定は４つの断層から仮定。今回の地震を受け、対象断層（海域活断層など）を追加する予定。想定シーンでは「冬の午前５時」「秋の正午」「冬の午後６時」に、「正月の午後６時」「ゴールデンウィークの正午」を追加し、被害想定項目に「宅地の液状化」「介護・福祉機能の支障」「海岸施設被害」の３項目を追加する予定。

（2）島根県では能登半島地震を受け、備蓄目標増と半島部での災害対応力を強化へ

島根県は２０１２年６月に「地震被害想定調査」を公表し、２０１８年３月の見直しで新たに「地震・津波被害想定調査」を公表しました。県は、この被害想定に基づき、「島根県備蓄物資整備計画」を策定し、必要な備蓄品目、目標数量などを定め、被災者等の生命維持に最低限必要な食料、飲料水、生活必需品、救助用資機材などを計画的に備蓄、更新しています。

島根県は、能登半島地震で道路の寸断等によって数日間にわたって多くの孤立集落が生まれた教訓を踏まえ、食料・飲料水について、現在、県市町村でそれぞれ０．５日分、家庭で１日分、合わせて２日分を備蓄目標としていますが、これを県分で１日分に増やし、市町村分についても１日分の備蓄とするよう備蓄目標を増やすこととしています。

現在、緊急消防援助隊や自衛隊等による空路での支援を受けるため必要なヘリポート等の現況調査を実施中（島根半島調査でヘリポート適地７０カ所程度）。

被害想定は、防災対策を講じる上での大前提。能登半島地震での断層帯の連動状況など最新の知見や活断層評価に基づき、最大規模の被害を想定し、計画を不断に見直すべきです。

■地震でトラブル多発　県道３６号線沿いに立地する北陸電力・志賀原発

（1）志賀原子力発電所の概要

北陸電力・志賀原子力発電所は、「石川県羽咋（はくい）郡志賀町赤住１」に所在。発電所の敷地面積は約１６０万㎡。**【志賀原発前での写真①】【原発敷地横に立つ脱原発・団結小屋写真②】**

１号機（沸騰水型・54 万 kW。1993 年 7 月～営業運転）、２号機（改良沸騰水型・135.8 万 kW。2006 年 3 月～営業運転）ともに２０１１年度以降、定期検査中。２号機については２０１４年８月１２日、原子力規制委員会に適合性確認に係る申請が行われ、現在審査中。２０２４年１月現在、志賀原発から半径３０㌔圏内に約１５万人（約６万世帯）が生活しています。

（2）地震で一時的に冷却が停止する事態に

志賀原発では、観測した揺れの加速度が設計上の想定を一部で上回り、変圧器が故障し、外部電源５系統のうち２系統の外部電源を喪失。使用済み核燃料プールのポンプが止まり、一時的に冷却停止の事態に。また、放射線量を監視する敷地周辺のモニタリングポストの一部測定不能などの異常が発生。

原子力規制委員会は「大きな異常はなかった」とするが、それはたまたま敷地内に指摘される活断層と連動しなかった不幸中の幸いでしかありません。福島原発事故の再来の恐れがありました。

今回の地震では、避難ルートとなっている山間部や沿岸の道路で隆起や陥没が発生し、土砂崩れなどで通行不能に。さらに、屋内退避する場合、窓を閉め、換気を止めるなど放射性物質を含むプルーム被害を防ぐこととしているものの、全壊をはじめとする住家被害は８万棟を超え、屋内退避ができないことがはっきりしました。**【志賀町・家屋倒壊、店舗、倉庫倒壊、護岸崩落、法面崩落写真】**

（３）能登半島地震と志賀原発の教訓　－地震列島日本の原発は廃炉に－

能登半島地震は、能登半島の沖合の北東から南西に１５０㌔に伸びる断層群が逆断層型にずれ動き、能登半島北岸一帯は２～４メートル隆起。志賀原発の北９㌔の内陸を東北東－西南西に走る富来川（とぎがわ）南岸断層があり、今回の地震で動いたことが報告されています。（日本地理学会調査チーム）

能登半島北部沿岸９０㌔にわたって隆起による海底の露出が確認され、ほとんどの漁港が干上がり、機能不全に陥りました。**【約4m 隆起した輪島市門前町の鹿磯（かいそ）漁港写真③】【黒島地区写真④】**

もともと、原発は「動かない地盤」の上に立てることになっており、地盤そのものの隆起や沈降は原発の安全設計そのもので想定されていません。

この度の能登半島地震は、断層の評価や断層の連動の可能性などについて科学的な検討の必要性を明確にし、さらに、大規模な地割れや地盤の変異、隆起・沈降が起きた場合に「原発に何が起こるか保証できない」ことを明らかにしました。

（４）志賀原発から３０㌔圏内には２１の放射線防護施設（屋内退避施設）１４施設で損傷

志賀原発から３０㌔圏内には、事故時に高齢者らが一時避難する２１の放射線防護施設（屋内退避施設）があり、そのうち１４施設が損傷。１４施設のうち、６施設では防護エリアの気密性が維持できなくなるなど、施設の稼働に影響を及ぼす被害を受けました。断水は全２１施設で発生し、緊急時に支援が必要な住民を守る役割を果たせない事態に直面しました。

志賀町の町立富来小学校では、柱や天井が損傷し、防護区画で雨漏りや窓に隙間が発生し、外気を遮断する陽圧化装置が機能しない事態に。特別養護老人ホームはまなす園**【施設外観写真⑤】**では、スプリンクラーが作動、廊下は水浸し。エレベーターは使用不能。入所者５０人は隣接する施設へ移動。

中国電力・島根原発３０㌔圏には、放射線防護施設として島根県に１９施設（鹿島、松江日赤、東部島根医療福祉センターの３病院、高齢、障害の１６社会福祉施設）があります。１９施設は「新耐震基準」を満たしていますが、志賀町では、新耐震基準を満たした建物でも被害が発生。また、耐震基準が定まっていない建物付属設備（ガス、上下水道、電気等）の老朽化対策の総点検が必要。

（５）寸断された避難路、志賀３０㌔圏で１５４人が孤立

能登半島地震では、県内で最大８７カ所が通行止めになり、原発事故時の指定避難路１１路線のうち７路線が通行不能となりました。志賀原発３０㌔圏の通行止めは１６路線３０カ所に及び、避難道路の過半が寸断され、３０㌔圏内の１４地区で１５４人が最長１６日間孤立し、原発事故が発生していれば、被ばくの危険にさらされる恐れがあったことが明らかになりました。

地震による土砂崩れで道路が通行止めとなり、一時孤立状態となった輪島市門前町深見地区では、市道が３月１１日に仮開通しました。**【仮開通した市道の写真⑥】【男性から話を聞いている写真⑦】**

- 島根県においては、宍道断層（３９㌔）の真上・近傍には１２３６カ所の土砂災害危険箇所（旧松江市・橋北地区７９３カ所、旧鹿島町１７６カ所、旧島根町９６カ所、旧美保関町１７１カ所）が存在します。大地震が発生すれば、同様の事態が発生することは明らかではないでしょうか。

（６）避難計画「机上の空論」を証明

石川県の原子力防災の避難計画では、志賀原発が万一の事故を起こした場合、３０㌔圏内の１５万人がバスや自家用車で避難することになっていますが、家屋倒壊、道路の寸断で計画に実効性がないことが明らかになりました。

伊藤信太郎原子力防災担当相は「陸路避難が制限される場合、海路、空路、必要に応じて屋内避難する」（２月７日、衆院予算委・笠井亮議員への答弁）と述べましたが、津波が来たら海上避難は不可能です。港の８割が損壊し、空路も能登空港に自衛隊が降り立ったのは地震発生から１０日後でした。

屋内避難についても、家屋の倒壊、停電や断水という事態が発生し、食料も調達できず、避難計画が全く機能しないことが明白になりました。

■命を守る医療現場の奮闘、女性や子ども、高齢者が安心できる避難所を

（１）志賀町唯一の公立病院、町立富来病院（放射線防護施設）で起こったこと

志賀原発の北約１０㌔にあり、１９９８年８月に開設された町立富来病院（竹村健一院長）は３階建ての町の基幹病院。一般病床６０床、介護医療院３４床の計９４床。現在は常勤医５名（震災当時は４名）、当直医１名、職員は約１００人。病院１階は外来や検査室、リハビリ室があり、病棟は２階。病院は海抜２．６メートルの場所に立地。**【竹村院長との写真⑧】【笠原雅徳事務長から話を聞く写真⑨】**

・ 視察した５月１４日も、病棟には天井から蛍光灯やケーブルがぶら下がる場所が残っていました。同病院は原発事故が起きた場合、入院患者と介護施設入所者が一時的に屋内退避する放射線防護施設の役割も担っています。新耐震基準を満たしているにもかかわらず、地震により防護区画の柱のコンクリートがはがれて鉄筋が露出。陽圧化装置は吹き出し口が脱落し、天井に６０㌢四方の穴が開き、空調も壊れました。**【2階病棟の写真⑩】【当時のままの献立表⑪】**

＜竹村院長、笠原事務長から寄せられた声＞

・ 自宅は半壊。強い揺れと津波警報が発令される中、家族には高台へ逃げるように指示し、自らは病院に駆け付けたとのこと。地震直後、天井の給湯・給水管が破損し、病院の１階・２階は水浸しに。職員も被災しながら全職員の３分の２にあたる約６０人が病院に駆けつけ。７２人の入院患者は３階に避難させたものの、「マンパワーが全く足りなかった」と当時の状況を述懐。**（笠原雅徳事務長）**

・ 病棟の天井が崩落し、ＣＴ検査室や手術室なども使えなくなりました。このため、当時入院していた７２人の患者は、１月２日から４日間かけて、災害派遣医療チーム（ＤＭＡＴ）の支援を受け、救急車２８台で金沢より南の病院に移動せざるを得ませんでした。地震と津波だけでも大変だった。もし志賀原発で事故が起きたならば、大変な事態になっていた。**（竹村健一院長）**

（２）富来防災センター（避難所）、富来活性化センター・給水所

富来防災センターでは、志賀町富来地頭（じとう）町の坂野満区長から、お話を伺いました（下記参照）。**【坂野区長との懇談写真⑫】【段ボールベッドが並ぶ避難所の写真⑬】【避難所で生活している高齢女性の写真⑭】【富来第4団地・プレハブ仮設住宅の写真⑮】**

避難所はプライバシーやジェンダーに配慮した女性専用スペースの確保など、十分とは言えないものでした。内閣府の「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」に沿った運営が求められます。

富来活性化センターの給水所で、ペットボトルに水を汲みに来ていた女性（４５歳）は、「瓦が落ち、天井も風呂もボイラーもダメになった。修理を業者に依頼しているが、いつになるのか全く見通しが立っていない」と、今後の生活に対する強い不安を訴えられました。**【給水を手伝っている写真⑯】**

能登半島地震から間もなく５カ月。避難生活の長期化も予想される中、過去の震災の教訓を踏まえ、声を上げづらい女性、子ども、高齢者の声をくみ上げる体制づくりと避難所の改善は急務です。

■志賀町役場からお聞きした現状と課題

志賀町役場では、環境安全課の上滝達哉課長、山守雄太主任から現状と課題を聴取しました。大きな課題として、災害時の「マンパワーが足らない」「倒壊家屋の解体が進まない」との事でした。

・ **5月7日から公費解体が本格化しましたが、過疎地で高齢化率も高く、被災家屋が何代も前の名義となっている。公費解体にあたっては、過去にさかのぼって、すべての相続人の同意が必要になるため、解体が進まない。（＊公費解体とは、申請に基づき市町が所有者に代わって解体・撤去する制度）**

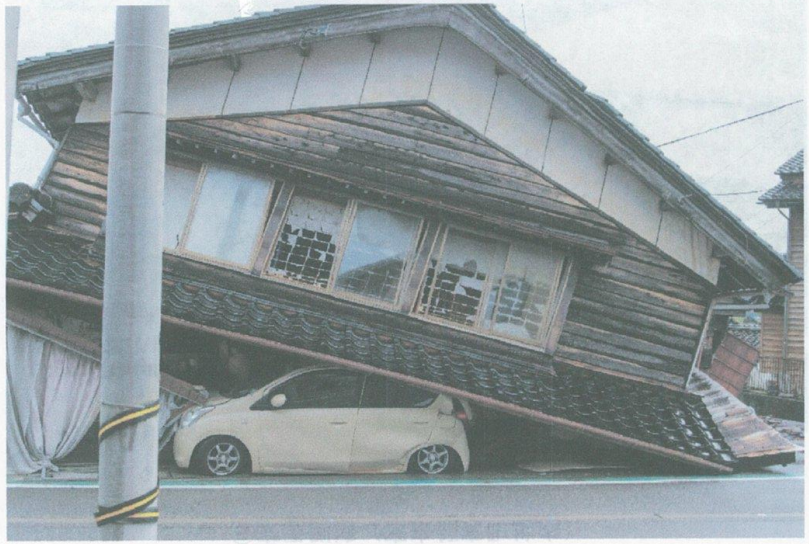
・ **現在は5班体制（1班4～5人）で公費解体を行っているが、6月からは20班に、7月から40班となる見込み。北陸4県と全国からの支援で対応し、能登全体で600班体制にしたい。課題として業者が足らないこと、志賀町に宿泊場所がないため、解体班は1時間かけて金沢市から通っている。**

・ **支援を受けるためには「罹災証明が必要」。十分なる申請がされていないため、申請式からプッシュ式に切り換えて、4月からは各世帯をローラー作戦で家屋調査を行っている。**

家屋倒壊（富来領家町地内）

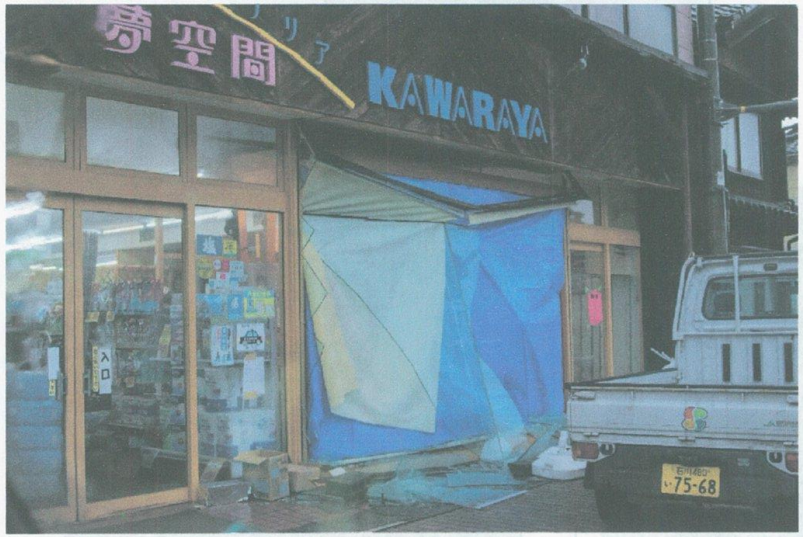
家屋損壊（富来領家町地内）

家屋倒壊（富来領家町地内）



家屋倒壊（富来領家町地内）

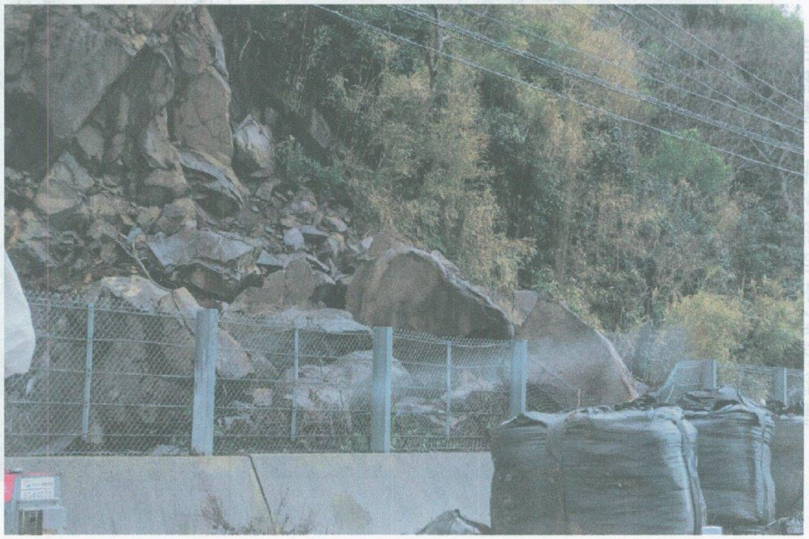
店舗損壊（富来地頭町地内）



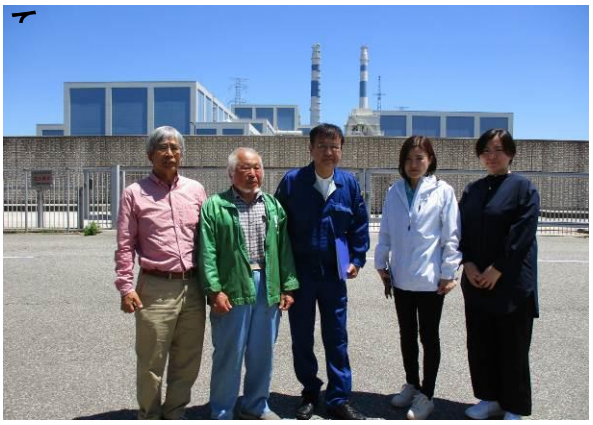
倉庫倒壊（富来地頭町地内）

護岸崩落（富来地頭町地内）

法面崩落（富来地頭町地内）



①県道３６号線沿いに立地する志賀原発前に



②原発敷地横に立つ脱原発「団結小屋」

③約４ｍ隆起した鹿磯漁港（輪島市門前町）

④重要伝統的建造物群保存地区・輪島市黒島地区

⑤放射線防護施設・特養はまなす園（志賀町）

⑥仮開通した市道（輪島市門前町深見地区）

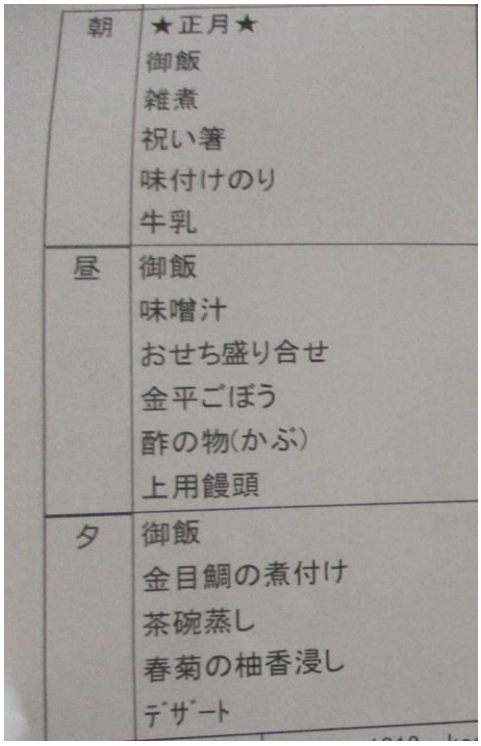
⑦一時孤立状態となった男性から話を聞く（輪島市門前町深見地区）

⑧志賀町立富来病院の竹村院長（左から2人目）

⑨町立富来病院の笠原事務長から話を聞く

⑩ケーブルがぶら下がったままの２階病棟

⑪当時のまま掲示されていた献立表（正月）



朝	★正月★
	御飯
	雑煮
	祝い箸
	味付けのり
	牛乳
昼	御飯
	味噌汁
	おせち盛り合せ
	金平ごぼう
	酢の物(かぶ)
	上用饅頭
夕	御飯
	金目鯛の煮付け
	茶碗蒸し
	春菊の柚香浸し
	ﾃﾞｻﾞｰﾄ

⑫富来防災センターで坂野区長と懇談

⑬段ボールベッドが並ぶ富来防災センター

⑮プレハブ仮設住宅（富来防災センター敷地内）

⑯富来活性化センターの給水所で補給支援